


建築への制振材料適用に関する 技術講習会（入門編）

 制振概論



エム・ワイ・アコーステク
 山口道征

1. 音・振動の基礎

1.1 音源

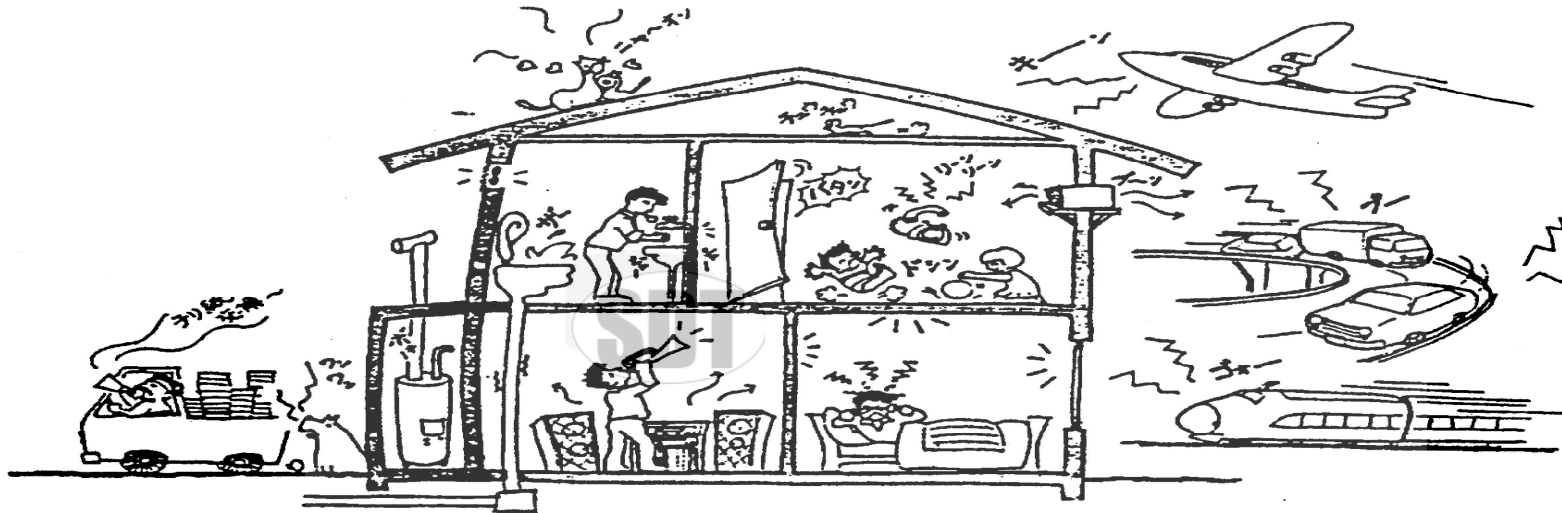
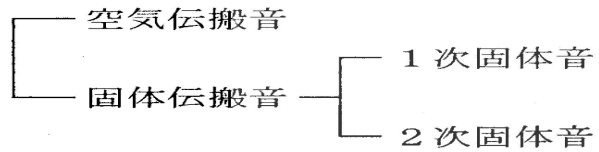


図1 音源の形態 (建築文化より)



超低周波音 (Infrasound, Infrasonic frequency sound)	~ 20Hz
可聴音 (Sound, Audio frequency sound)	20 ~ 20kHz
騒音 (Noise, Undesired sound)	40 ~ 8000kHz
超音波 (Ultrasound, Ultrasonic frequency sound)	20kHz ~

制振工学研究会講習会

建築への制振材料適用に関する技術講習会

建築への制振材料適用事例

平成27年5月14日

小林真人（飛島建設）

目次

1. 住宅建築物（RC・木造・鉄骨工業化）
2. 空気調和・衛生設備
3. 劇場・ホール
4. 事務所
5. 高架下建築物
6. 体育館
7. まとめ

出典：制振工学ハンドブック， p.p1036～1072， コロナ社， 2008.

開催日： 2015年5月14日(木) 時 間： 13:00～17:00
会 場： (社)日本合成樹脂技術協会 5階会議室

【建築への制振材料適用に関する技術講習会】

- 13:55～14:25

「窓サッシの制振・遮音に関する数値解析」

○群馬大学：山口 誉夫



講義内容：粘弾性制振材料を適用した構造物の振動減衰特性、応答の数値解析法について説明します。有限要素法とモード歪みエネルギー法に着目し、基礎理論、計算精度を示します。さらに制振工学研究会の「建築(住宅)における制振材料利用技術WG」で取り扱っている研究課題「窓サッシの制振遮音特性に与える周縁の支持構造の減衰特性の影響」を例として説明します。